

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)				担当	酒井							
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
中学1年		国語		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発 動機						
時間数		使用教科書		✔	課題発見	✔	戦略的学習力	✔	言語スキル	✔	協働性	✔	データサイエ ンス	✔	クリエイティ ビティ	未来 志向
4時間／週		教科書(光村図書)/セレクト漢字検定/ 解いて覚える中学の文法/国語便覧(浜島書店)		✔	可能性発見	✔	自己修正	✔	双方向コミュ ニケーション	✔	ソーシャリティ	✔	批判的思考	✔	論理的表現力	他者 尊重
				✔	パーソナライ ズな学び	✔	レジリエンス	✔	感情の コントロール	✔	教科と社会を 紐づける力	✔	情報リテラ シー	<倫理観><双方向コミュ ニケーション><自己修正>		自己 承認
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	朝のリレー、野原はうたう、 はじまりの風、話の構成を 工夫しよう、ダイコンは大き な根?、ちょっと立ち止まっ て、比較・分類、情報を整理 して書こう	朝のリレー・野原はうたう(詩に触れる)、はじまりの風(心 情の変化を捉える)、話の構成を工夫しよう(話の順序を 知る)、ダイコンは大きな根?・ちょっと立ち止まって(段落 の役割・構成を知る)、比較・分類・情報を整理して書こう (実際に情報を他者に伝える)	社会的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン								
				作者の意図や物語の世界の視点を持 つことができる ・単元テスト ・課題		クラス外や学校外からの視点を持つ て、新たな問いを見つけ出せる ・課題、クリエイション		学びで得たものを実社会につなげた 具体的なアイディアとして確立し、そ れを公の場で発表できる ・アウトプット考査 ・小論文、レポート、プレゼンなど								
2 学期	空の詩、大人になれなかつ た弟たちに……、星の花が 降るころに、文法、いろは 歌、蓬萊の玉の枝、今に生 きる言葉、「言葉」を持つ 鳥、シジュウカラ、根拠を明 確にして書こう	空の詩(言語での表現を考える)、大人になれなかった弟 たちに……(心情を知りそこから戦争を知る)、星の花が 降るころに(場面描写を結びつける)、文法(言葉の単位、 組み立て、分類)、いろは歌・蓬萊の玉の枝(古典に触れ る)、今に生きる言葉(言葉の由来を考える)、「言葉」を持 つ鳥、シジュウカラ・根拠を明確にして書こう(数値やグラ フを使ったレポートを書く)	地域的視点 他者	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表								
				国語便覧やその他資料を用いること ができる ・単元テスト ・課題		自分の学びを他者と共有し、相違点 や共通点に気が付ける 課題を他者と共有しながら進めること ができる ・課題、クリエイション		外部コンテスト等へ応募 漢字検定などの外部機関への挑戦 ・創作物語 ・漢字検定等								
3 学期	少年の日の思い出、「不便」 の価値を見つめ直す、二十 歳になった日、1年間の学 びを振り返ろう	少年の日の思い出(表現の奥深さを考える)、「不便」の価 値を見つめ直す(物事の捉え方を考える)、二十歳になっ た日(随筆に触れる)、1年間の学びを振り返ろう(自分の 学びを自分で語る)	個人的視点 入国	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする								
				物語・論説文の構成を理解する 必要な知識をみにつけることができる ・単元テスト ・課題		課題を通して文章に込められた問い を理解し、それに取り組むことができ る ・課題、クリエイション		自分が発見した学びを公の場で発表 することができる ・アウトプット考査								
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act								
				評価方法				学びのリソース(教材・ICT)								
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●朝学習テスト(20%) ●単元テスト(30%)		●アウトプット考査(30%) ●課題・提出物(20%)		【教材】教科書・国語便覧・プリント ・iPad							
授業での学びが実社会にどのように生きるのか?		スピーチ、レポート、動画作り、小論文など			思考力・判断力・ 表現力					【ICT】 ロイロノート、GoogleClassroom、 Pages、Keynote、Numbersなど						
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		Googleクラスルーム・ロイロノートNumbers		主体的に学習に 取り組む態度						【備考】 必要に応じて Web動画など						

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	岩本					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
中学1年		社会		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☑	課題発見	☑	戦略的学習力	☑	言語スキル	☑	協働性	☑	データサイエンス	☑	クリエイティビティ	未来志向
3時間／週		オリジナルテキスト 地図帳(帝国書院) 地理教科書(日本文教出版)		☑	可能性発見	☑	自己修正	☑	双方向コミュニケーション	☑	ソーシャリティ	☑	批判的思考	☑	論理的表現力	他者尊重
				☑	パーソナライズな学び	☑	レジリエンス	☑	感情のコントロール	☑	教科と社会を結ぶ力	☑	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・世界の地理	・世界地理の概要や、世界諸地域の地理的特徴とそこに住む人々の生活に関して学習を行う。 ・身近な事物を取り上げることや、他者との対話の機会を増やし、地理への学習意識や興味関心を高める。		世界的視点 社会・社会	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					グローバル化する世界でおこる諸事象と自分自身を結びつけて考え、学びをより深めることができる。		現在諸地域で実際に起こっている事象と学習したことを結びつけ、地理的観点から学びを深めることができる。		世界や日本の地理や、そこで起こる課題などの学習から、今自分にできることを考え、行動しようとする姿勢がみられる							
2 学期	・日本の地理	・日本地理の概要や、日本諸地域の地理的特徴とその地域における人間の活動についての学習を行う。 ・1学期で培った地理に関する興味関心と学習内容を結びつけ、他者に発信・表現する。		他者の視点 地域・個人	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					GISを積極的に活用し、地理的観点から批判的かつ論理的に分析し、学びを深めることができる。		様々な意見をもつ他者と対話をするなかで、自分自身のもつ「問い」を多角的に思考し、深めることができる。		中野区の地域課題を探索し、課題解決にむけた具体的な行動案を言語化し学外に発表できる。							
3 学期	・自分が生活する地域の地理	・中野区の地理的特徴と、2・3学期で学習した内容を結びつけ、中野区が抱える地域(防災)の課題を探索する。 ・中野区の政策や、街づくりなどを通して実社会と自分自身を関連づけて学びを深める。		個人の視点 個人	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					教科書を中心とした知識が身につく、地理に関する基本的な情報がわかる。		学習した内容から、世界・日本の地理と人々の生活の関連性に関して「問い」を発見し、さらに学びを深めることができる。		学習内容をまとめ、自身の意見を踏まえながら他者を意識したプレゼンテーションができる。							
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
				評価方法						学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト(20%) ●授業内課題(10%)		●アウトプットテスト※創作過程や自己評価も含む(40%) ●ふりかえりシート(30%)		<教材> 日本教育出版「地理」 帝国書院「地図帳」 新渡戸文化オリジナルテキスト「社会」 <ICT> ipad グーグルクラスルーム 他、ICTアプリ <備考> 実物教材							
・「地理」を学ぶ意味とは？ ・生活と地形はどう関係しているか？ ・過去の自然災害が今にどのような影響を与えているのか？		・地形/生活等の関係を示した、独自の都道府県章を作成することができる。 ・地形、統計資料等から、中野区が抱える防災の課題を考察することができる。		思考力・判断力・表現力												
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・Google Classroom(進捗課題および予定の確認) ・ロイロノート(進捗共有および作品共有)		主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)								担当	濱本,山崎				
学年／コース			教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
中学1年			数学		自分をコントロールする Self-Control			他者につながる Communication		新しい価値を創造する Creation							
					目標設定	選択		対話	つながり	情報活用	創造表現	内発 動機					
時間数			使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☐	言語スキル	☒	協働性	☒	データサイエ ンス	☒	クリエイティ ビ ティ	未来 志向
5時間／週			これからの数学 1(数研出版)		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュ ニケーション	☐	ソーシャリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者 尊重
					☒	パーソナライ ズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情の コントロール	☒	教科と社会を 紐づける力	☒	情報リテラ シー	<倫理観><双方向コミュ ニケーション><自己修正>		自己 承認
	単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・正負の数 ・文字と式 ・方程式		正負の数、文字と式の意味を理解し、基本的な知識を身につける。 また、具体的な場面で活用できる。		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る			B3 実社会の問いを生む			C3 社会貢献のデザイン					
						実世界の事象から数値を比較・分析したものを選択した方法で表現できる。※リアルな体験を通してB3につなげる可能性もある。											
2 学期	・比例と反比例 ・データの活用 ・平面図形		比例と反比例、データの活用、平面図形の意味を理解し、基本的な知識技能を身につける。 また、具体的な場面で活用できる。		社会・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る			B2 対話から問いを生む			C2 学外に向けて発表					
						日常の事象から問いを発見し、解を導くことができる。			日常の事象もしくは実社会の問題に対して、役割分担を行い、解決や創造のアウトプットを共創する。								
3 学期	・空間図形 ・中1の復習		空間図形の意味を理解し、基本的な知識技能を身につける。 また、具体的な場面で活用できる。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る			B1 個人の問いを生む			C1 校内で発表をする					
						基本事項の本質的な理解につとめ、基本問題を解くことができる。			手順の違う解法など他者の意見の理解に努め、学び方に向き合う姿勢が見られる。また、それらを自己評価することができる。			学習成果を共有・プレゼンテーションおよび相互評価することができる。					
					関わり Engage			探究 Investigate			行動 Act						
					評価方法						学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例			創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト(40%) ●Checkテスト(10%)			●創作活動(30%) -協働や相互評価 -発表または共有、成果物 -活動の貢献度			【教材】 ・OKRAおよびQubena ・演習用プリント 【ICT】 ・教科サイトおよびiPad Appなど ・NHK for School「マスと！」 【備考】 必要に応じて Web動画、Webソフトを活用する					
・実生活で正負の数がどんなところで使われているのか ・文字と式を使うとどのように便利になるのか			・文字と式を使うとどのように便利になるのか ・日常にあるものの形をとらえ、面積や体積を求め、その意味を考察する												思考力・判断力・表現力		
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>			・Google Classroom(進捗課題および予定確認) ・Padlet(進捗共有および作品共有)		主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当						
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
中学1年		理科		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☒	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
3時間／週		啓林館 未来へ広がるサイエンス		☐	可能性発見	☐	自己修正	☐	双方向コミュニケーション	☒	ソーシャリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
				☒	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を結ぶ力	☒	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・いろいろな生物とその共通点 ・生物の体のつくりとはたらき	・生物を分類することができる。 ・植物や動物の構造やそのはたらきや分類について説明できる。 ・生物の細胞のつくりや生きていくための働きについて説明できる。 ・動物の体の構造や生命維持の仕組みについて説明できる。		・世界の視点 ・社会的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					生物の共通点と多様性、及び体の作りと生命活動との関わりについて、生物の構造や特性が実社会に用いられていることに気づく。		実社会に用いられている生物の特性や構造の観察から、その原理や法則について疑問をもち、検証する。		身近な生物のつくりやはたらきを応用し、日常生活を便利にするためのアイデアを提案できる。							
2 学期	・生命の連続性 ・生物と環境	・生物の生殖や成長について説明できる。 ・遺伝の法則やその本体について説明できる。 ・生態系の構造やその中での関わりについて説明できる。 ・生態系における物質のつながりについて説明できる。 ・持続可能な社会に向けて、生物学との関わりを説明できる。		・地域の視点 ・他者の視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					生物の共通点と多様性、及び体の作りと生命活動との関わりについて、身近な生物に着目して観察・検証を行い、その気づきを表現できる。		身近な生物の観察から、その生物の生活や体のつくりについて疑問をもち、検証する。		自らの問いを、学外のコンテストなどに発表する。							
3 学期	・活きている地球	・大地の変化や地震について説明できる。 ・火山の噴火や地球や人間活動への影響について説明できる。 ・地層の特徴やその構造について説明できる。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					生物の共通性と多様性、及び体のつくりと生命活動のかかわりについて、基本的な法則性や代表的な生物について説明することができる。		生物の共通性と多様性、及び体のつくりと生命活動のかかわりについて、疑問を見出すことができる。		一般に知られていることをまとめ、プレゼンテーションおよび相互評価することができる。							
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
					評価方法				学びのリソース(教材・ICT)							
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例			知識・技能		●単元テスト(30%) ●アウトプット型テスト(30%) ※アウトプットの再試は7割		●創作活動(Creation) ●提出物の状況 ●プレゼンテーション ※上記3つで40% ●eboard(+α)		【教材】 問題集 (教育開発出版株式会社 中学の生物) 【ICT】 ・教科サイト ・ロイノートスクール ・eboard など 【備考】 eboardはプラスアルファとし、満点以上分の加点とする。					
・“自分のため”であり誰かのための学びとは何か？ ・責任(持続可能な社会に向けて)をもって、理科を活用することはできるか？		・Essential Questionに対して自分の経験や生活と関連させて説明することができる。 ・義務教育で理科を学ぶ意義を自分の経験や生活と関連させて説明することができる。			思考力・判断力・表現力											
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・ロイロ資料箱:授業プリント、年間予定など ・提出物:ロイロ提出物、単元確認Google Form)			主体的に学習に取り組む態度											

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)				担当	村上・齋木・ モーリス・岸・近藤	
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー						
中学1年		英語		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation		内発 動機
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	
時間数		使用教科書		☒ 課題発見	☐ 戦略的学習力	☐ 言語スキル	☐ 協働性	☐ データサイエ ンス	☐ クリエイティビ ティ	未来 志向
時間／週		Sunshine English Course 1		☒ 可能性発見	☒ 自己修正	☒ 双方向コミュ ニケーション	☐ ソーシャルティ	☒ 批判的思考	☐ 論理的表現力	他者 尊重
				☒ パーソナライ ズな学び	☐ レジリエンス	☒ 感情の コントロール	☐ 教科と社会を 結ぶける力	☐ 情報リテラ シー	<倫理観><双方向コミュ ニケーション><自己修正>	自己 承認
単元		単元の概要・ゴール		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)						
1 学期	・be動詞と一般動詞 ・This is ～ / That is	・初対面の挨拶や自己紹介ができる ・身の周りのモノについて話せる →自分の生活や習慣、興味関心を内省する視点を育む (個人的視点)	社会的視点 社会・世界	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン		
				英語を聞いたり読んだりしながら与えられたミッションをこなしたり、英語環境に身を置く経験をする事で新しい言語に対する親和性を高める。						
2 学期	・代名詞 ・三人称単数現在 (・can / can't)	・身の回りの人を紹介することができる(他己紹介) →周りにどのような人がいるかを説明することばを育む (他者・地域的視点)	他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表		
				英語の児童書を使いながら文化の違いを発見したり、英語の発音やアクセントなど音の違いに意識的になる。		クラスメイトと協働しながら英語を学び、自分が何がわかって何がわからないのか、またどうその問題に向き合うかを解決していく。				
3 学期	・現在進行形 ・過去形 (・There is / are ～)	・アクションと英語を関係づけて理解できる ・過去や歴史を振り返って説明できる →社会に対して過去から今を文脈的に見つめる視点を育む	個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする		
				好きなこと、興味など自己紹介に使える表現で自分を表現したり、他者に質問したりできる。		・単元テストごとに振り返りを実施し、どのような復習を行えばよいか計画を立てる		準備したプレゼンをグループ内で発表する		
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act		
				評価方法				学びのリソース(教材・ICT)		
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能	・単元テスト ・音読テスト		・自己評価、他己評価 ・クリエイション活動		iPad、辞書 教科書	
自分の身の周りにはどんな面白いことがある？ そこで自分は何をする？										
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head		ポートフォリオ		主体的に学習に 取り組む態度						

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)				担当		川村祥子						
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
中学1年		音楽		自分をコントロールする Self-Control		他者とながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☑	課題発見	☑	戦略的学習力	☑	言語スキル	☑	協働性	☑	データサイエンス	☑	クリエイティビティ	未来志向
1時間／週		教育芸術社:中学生の音楽Ⅰ		☑	可能性発見	☑	自己修正	☑	双方向コミュニケーション	☑	ソーシャルリティ	☑	批判的思考	☑	論理的表現力	他者尊重
				☑	パーソナライズな学び	☑	レジリエンス	☑	感情のコントロール	☑	教科と社会を紐づける力	☑	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認	
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・校歌斉唱 ・歌唱 ・鑑賞	・歌唱の基本 姿勢、発声、歌詞の意味を理解、実践しグループ活動、グループ発表ができるようになる。 ・バロック音楽の特徴を理解する。		社会的視点 社会	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					様々な楽曲を形づくっている音楽の諸要素を理解し、意思をもって音楽で表現したり、言葉で表すことができる。		(A3、B2より派生する場合もある)									
					A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
2 学期	・日本の伝統音楽に親しもう、声による表現の多様性	・伝統音楽ー音楽の特徴、多様性、背景となる文化や歴史、社会における意味、役割を理解できる。 ・表現の多様性ー音色や響き、言葉の特性、曲の種類に応じた発声、声や響きを聴き確認し合う。 作曲の基礎、アプリの音素材の特徴や組み合わせの理解、音楽の構成を理解し曲を創造する。		他者の視点 地域	楽曲成立の背景を自分なりに考察したり、調べたり、音楽を形づくっている要素を発見し、表現することができる。		・音楽の表現について対話し、アンサンブル発表などアウトプットを共創することができる。		(B2、C1より派生する場合もある)							
					"		"									
					A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
3 学期	音楽アプリの活用、音や音楽のイメージをもち、それぞれの表現を創造する	・作曲の基礎、アプリの音素材の特徴や組み合わせの理解、音楽の構成を理解し曲を創造する。		個人的視点 個人	音色やテクスチュア、リズムの理解につとめ、表現することができる。		表現について自分の言葉で語るとともに、表現方法の違いなど他者の考えの理解に努め、学び合に向き合う姿勢がみられる。また、それらを自己評価することができる。		歌唱や創作について学習を演奏発表したり、相互評価することができる。							
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
					評価方法				学びのリソース(教材・ICT)							
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト ●まとめテスト(30%) ●授業プリント ●ドリルなど 学習の進捗状況(30%)"		●創作活動 ●協働や発表 ●活動の貢献度(40%)		【教材】 ・授業プリント 【ICT】 ・教科サイトおよびiPad Appなど 【備考】 必要に応じてGarageBandを活用する							
歌唱や器楽、鑑賞をとおして、音楽や芸術と、生活などの人の営みに興味、関心をもち、自らのテーマを探す。		歌唱課題の理解に歌詞を可視化したり、身体表現を用いたり、他者の表現理解をする。模倣から自身の表現につなげる。		思考力・判断力・表現力												
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・Google Classroom(進捗課題および予定の確認)		主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)										担当															
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー																									
中学1年		美術		自分をコントロールする Self-Control				他者とつながる Communication				新しい価値を創造する Creation																	
				目標設定		選択		対話		つながり		情報活用		創造表現		内発動機													
時間数		使用教科書		☒	課題発見			☐	戦略的学習力			☐	言語スキル			☒	協働性			☐	データサイエンス			☒	クリエイティビティ			未来志向	
1時間／週		日文		☒	可能性発見			☒	自己修正			☒	双方向コミュニケーション			☐	ソーシャルリティ			☒	批判的思考			☒	論理的表現力			他者尊重	
				☐	パーソナライズな学び			☒	レジリエンス			☒	感情のコントロール			☐	教科と社会を結ぶ力			☒	情報リテラシー			<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>				自己承認	
	単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)																								
1 学期	・ロゴマークづくり		・keynoteを使い、図形を工夫して表現できる ・効果を想定して、色や形を選択できる ・伝わるために、 unnecessary要素を削ぎ落とすことができる		社会的 視点 点	A3 実社会から学びを得る				B3 実社会の問いを生む				C3 社会貢献のデザイン															
						色や形がもたらすイメージが世界でどう活用されているのか、文化や人種を超えた視点でその可能性について視点をもつことができる。				色や形について、日常の事象もしくは実社会の問題に対し、役割分担を行い解決するための手段・方法を試行錯誤できる。				実社会において、色や形が笑顔を生むアイディアを提案、対話し実現に向けて行動できる。フィードバックを元により良い在り方について試行錯誤できる。															
2 学期	・伝統模様から、パターンの制作 ・色づくり		・想いを形にしてきた伝統や歴史について知る ・パターンの美しさや面白さを感じることができる ・自分の内にあるものを色や形にして表現できる		他者の 視点 点	A2 本物の素材から学びを得る				B2 対話から問いを生む				C2 学外に向けて発表															
						身の回りにある色や形がもつ役割について観察し、感じようとする				自分とは違う他者の視点の理解に努め、学び方に向き合う姿勢が見られる。また、それらを自己評価することができる。																			
3 学期	・陶芸(テラコッタ)		・土の可塑性についての基本的な知識を身につける ・素材の特性を知り、表現したいものを形にできる		個人的 視点 点	A1 教科書から学びを得る				B1 個人の問いを生む				C1 校内で発表をする															
						色や形がもつ名称、分類、感じ方・与える印象の例などを学ぶ。				色や形について、自分の観察眼を用いて、自分が惹かれるものを他者に伝えることができる。				学習成果をプレゼンテーションおよび相互評価することができる。															
						関わり Engage				探究 Investigate				行動 Act															
						評価方法								学びのリソース(教材・ICT)															
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart				創造的な活動およびアウトプットの例 Hands				知識・技能		●作品 ●コンセプト ●問いへの向き合いかた ●プレゼンテーション				●主体的に取り組む態度 ●仲間に還元しようとするアプローチのありかた ●相互評価				【教材】 ・教科書 ・授業プリント ・動画資料 【ICT】 ・iPadアプリ 【備考】											
<世界には、色や形がなぜあるのか>				個人またはグループで実践(制作活動)を伴った試行錯誤をまとめ、プレゼンする。																									
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head				・Padlet(進捗共有、作品共有) ・クラスルーム(予定の確認、課題共有)				主体的に学習に取り組む態度																					

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	釜石、伊藤					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
中学1年		[中学]保健体育		自分をコントロールする Self-Control		他者とながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
2時間／週				☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☒	ソーシャルリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
				☒	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を紐づける力	☒	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・体育祭ダンス ・剣道	・体育祭に向けてダンスを覚え、体育祭当日に発表する。 ・剣道の基本的な技術と礼儀作法について学ぶ。		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					プロや大学生などのプレーの様子を動画等で学び、自分のプレーに生かすことができる。		スポーツにまつわる様々な課題について、興味や問いを持ち提案することができる。									
2 学期	・バレーボール ・陸上(短距離走・ハードル走)	・バレーボールのルールとオーバーハンドパスやアンダーハンドパスなどの基本的な技能を習得し試合を展開できるようにする。 ・短距離走のフォームやスタートを習得し記録が向上できるようにする。 ・ハードル走の踏切足を決めリズムカルに走るなどの基本的な技能を習得し記録が向上できるようにする。		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					友達のプレーから良い点・悪い点をみつけ、自分のプレーに生かすことができる。		自他のプレーについて課題を見つけ、技能を高めるためのアドバイスをすることができる。									
3 学期	・サッカー	・サッカーのルールとインサイドキックやインステップキックなどの基本的な技能を習得し試合を展開できるようにする。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					基本ルール・技術について、教科書から学ぶことができる。		自分のプレーについて課題を見つけ、技能を高めることができる。		試合や発表会など学んだ基礎技能を実践で使うことができる。							
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
				評価方法					学びのリソース(教材・ICT)							
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●技能・筆記テスト(50%) ●授業参加度(20%) アウトプット・単元テストの公欠や出席停止は追試をする(点数はそのまま)、普通の欠席は追試はしない。		●アウトプット型テスト(30%)		【教具】 ・体育用具 【ICT】 ・iPad ・ロイロノート ・クラスルーム 【備考】							
・生涯を通してスポーツとどう関わることができるか ・自他の課題解決のためにどう行動するか		試合や発表会など学んだ基礎技能を実践で使うことができる。														
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		ロイロノートなど		主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)				担当	露無							
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
中学1年		家庭科		自分をコントロールする Self-Control		他者とながら Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☐	戦略的学習力	☐	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
2時間／週		開隆堂 家庭分野		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☐	ソーシャルリティ	☐	批判的思考	☐	論理的表現力	他者尊重
				☐	パーソナライズな学び	☐	レジリエンス	☐	感情のコントロール	☒	教科と社会を結ぶ力	☐	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・衣服のはたらきと手入れ ・衣服の選択と着方	・衣服の社会生活上のはたらき ・自分らしい着方、コーディネート ・和服文化、和服と洋服のちがい ・布の種類、繊維の特徴 ・衣服の汚れの種類と適切な手入れ ・洗濯の取扱い表示、洗剤の働き、洗濯機による衣服の手入れ ・衣服の循環、衣服の入手と既製服の選び方	社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン								
						衣服や住居に関する社会問題を取り上げることで、現代社会の問題に気づき、自分の意見を持つことができる。										
2 学期	・布を用いた作品で生活を演出 ・被服実習 ・人間にとっての住まい ・生活に必要な住空間	・生活を豊かにする物の制作とデザイン計画 ・制作の基礎・基本 ・手縫いの基礎 ・家族の住まい方、空間の使い方、工夫	他者・地域の視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表								
				被服実習を行うことで、基本的な手縫いの技術を学ぶ。 コーディネートやデザイン案、デザインアレンジを自ら考えることで、制作の楽しさを知る。		C1の実施により、学んだ内容や自分の考えを、グループ内およびクラス内で共有する。より深い理解を得るだけでなく、他者の意見を知る。										
3 学期	・自然とともにある住生活 ・安全で健康な住生活	・地域の特性・地域生活と住まい方 ・室内環境の調整方法 ・災害や家庭内事故に備えた空間づくり	個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする								
				教科書の内容に準じた穴埋め式ワークシートを用いて学ぶことで、体系的に衣生活や住生活について理解する。		自身の生活を振り返る内容の個人ワークを行うことで、学習内容を自分事としてとらえ、学びに自ら向き合う。また、自分の意見や考えに対して自己評価ができる。		グループ内で話し合った内容、個人ワークで考えた内容をクラス内で発表する。								
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act								
				評価方法						学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能	●ワークシート、振り返りシートなどの提出物 ●被服実習の制作作品		●創作活動 ●発表および共有 ●活動の参加状況、貢献度 ●学習の進捗状況		【教材】 ・ハンドアウト資料(ワークシート、振り返りシートなど)、教科書 【ICT】 ・WEB動画、教材サイト 【備考】 必要に応じて補助資料を配布、供覧							
													思考力・判断力・表現力			
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head		・Google Classroom(配布資料の配信・準備物の連絡など) ・ハンドアウト資料(ワークシート、振り返りシートなど)		主体的に学習に取り組む態度												